

戸田氏が所有した元の染付

田原城は戸田氏が築城し、15世紀末から幕末までの390年あまり続いた城です。

平成5年度に城の最北端、藤田曲輪で発掘調査が行われました。この調査では、戸田氏の時代（15世紀末～16世紀中）に使われた、大量の陶磁器類が発見されました。その中でも目を引くのは青磁・白磁・染付の碗、皿などの中国産陶磁器です。

この中には、中国の元時代の染付が含まれていました。破片のため、形を復元できませんが、壺と思われ、深い青色で描かれた鳳凰、牡丹などの文様は、破片といえどもうっとりする美しさです。ちなみに骨董品をのぞいて元の染付は全国でも20例程度しか発見されておらず、東海地方でも2ヶ所しか見つかっていません。発見されているのは戦国大名クラスの城が有力寺院で、全国でも田原城規模の城としては東京の葛西城だけです。

元の染付は14世紀中頃に作られており、戸田氏の全盛期と200年ほどの開きがあります。現代人が江戸時代の骨董品を所持しているのと同じ感覚で

す。また、全国でも発見例が少ないとなると、当時でも貴重品だったのは間違いないでしょう。当時の中国への憧れは相当のもので、なかでも元の染付はステイタス・シンボルでした。田原城で見つかったものは、戸田氏が会所などに飾る美術品として入手したもので

なぜ、戸田氏クラスの領主がこの染付を持てたのでしょうか。伊勢湾周辺は東国への海上交通の拠点となる所です。戸田氏の全盛期は、渥美半島から知多半島までがその治めるところでした。三河湾はもとより伊勢湾の海上交通に大きな力を持っていたことと思われ、海上交通で得た財力により元の染

付を入手したのでしょう。偶然にも、葛西城も流通に関わる城です。

戸田氏は「海賊」という言い伝えを、地元ではよく聞きます。船を操り、海上交通を担う立場にいたことを考えれば、「海賊」という言い伝えも間違っていないでしょう。

しかし、これほどまでの勢力を持っていた戸田氏も、今川氏に滅ぼされてしまいました（一五四七年）。調査で出土した、バラバラに壊れ、焼けた跡のある陶磁器破片を見ると、戦国時代の厳しい状況がうかがわれます。

▽田原町博物館 22局1720



●藤田曲輪の発掘調査で出土した染付の破片  
（左上）口の部分・（右上）底の部分・（左下）牡丹文様・（右下）鳳凰の羽の文様

【染付】陶磁器の装飾技法の一。また、その陶磁器。中国では元代に盛んになり、日本では江戸初期の伊万里焼に始まっている。

今月の表紙 COVER STORY

祭りのあとの静寂感。過ぎゆく時間が楽しければ楽しいほど、私たちはこう感じます。「このひとときがもう少し続けばいいのに」▼「祭りより前の日」という諺もあるように、祭りに限らず、何事も期待に胸をふくらませていくときがいちばん楽しいのは、世の常人の常。だからと言って、永遠に始まらなければよいという訳ではありません▼物事には必ず始まりと終わりがあります。私たちも、たかさんの「始まりと終わり」を経験しながら、生涯という大きな「始まりと終わり」をまっとうします▼暮らしの中で終わることを先読みしては、何か新しいものを生み出そうとする意欲は湧いてきません。もちろん、失敗する可能性はあります。でも、気持ちを抑えて無難に過ぎずより、終わってしまうことが惜しくなるほど情熱的な時間を創造する方が、素敵だと思いませんか？（写真・今年も田原まつりに多くの人が心酔しました）

【人口と世帯数】

総人口	36,822人	
男性	18,794人	
女性	18,028人	
世帯数	11,513世帯	
出生	20人	死亡 16人
転入	81人	転出 72人
増減	13人	

（平成14年9月1日現在・増減は8月中）

【行政面積】 82.86 km<sup>2</sup>

（平成11年10月1日現在・国土地理院調べ）